

日本

貿易統計 (2019年10月)

- アジア・米国向けを中心に輸出は低調 -

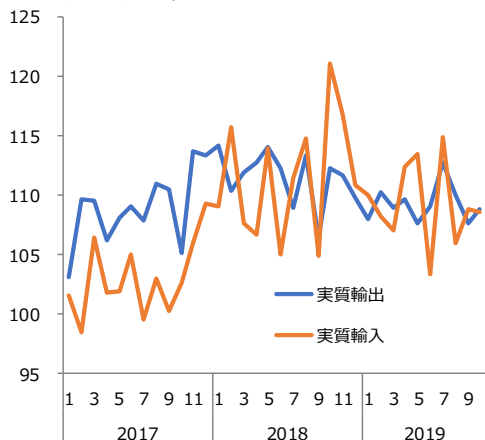
政策・経済研究センター

綿谷謙吾

03-6858-2717

1 実質輸出入

(2015年=100)

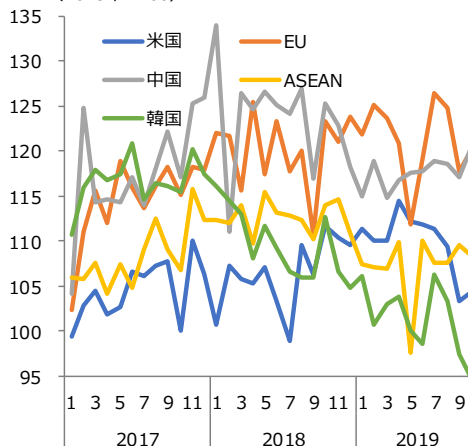


注：当社による季節調整値。

出所：財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」より三菱総合研究所作成

2 実質輸出：国別

(2015年=100)



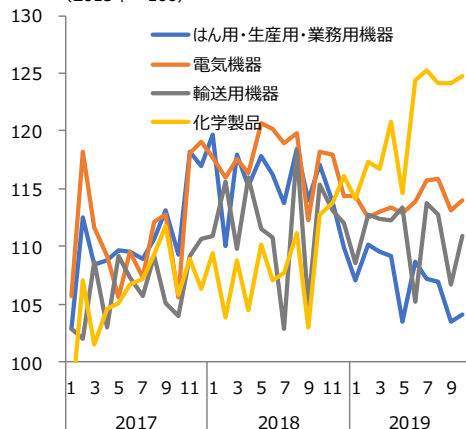
評価ポイント

今回の結果

- 19年10月の実質輸出（当社による季節調整値）は、前月比+1.1%、実質輸入は、前月比▲0.2%となった。貿易収支（季節調整値）は、▲347億円と、16ヶ月連続で赤字。
- 実質輸出（当社による季節調整値）を国別で見ると、中国・米国・EU向けが増加した。中国（前月比+2.8%）は、はん用・生産用・業務用機械、電気機器が増加に転じ、全体を押し上げた。米国（同+1.0%）は、輸送用機器が6カ月ぶりに増加、はん用・生産用・業務用機器も増加し、全体を押し上げたものの、米国向け輸出は19年半ばをピークに減少傾向にある。一方、ASEAN・韓国向けは減少した。韓国（同▲2.8%）は日韓関係の影響等から減少傾向が継続しており、韓国向け輸出は15年11月以来の低い水準となった。
- 半導体製造装置の実質輸出は、前年の高い伸びからの反動もあり前年同月比▲3.9%と4か月連続の減少。中国向けや韓国向けの減少が続いているが、世界の半導体需要の下げ止まりの動きを受けて、減少幅は縮小した。

3 実質輸出：品目別

(2015年=100)

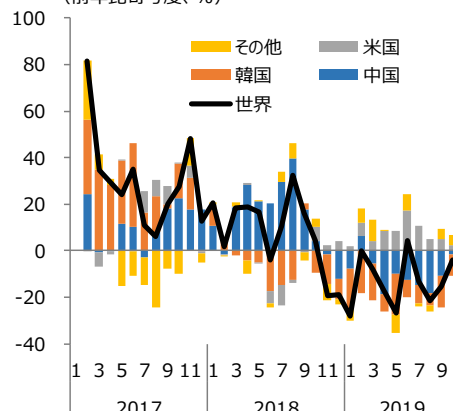


注：当社による季節調整値。

出所：財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」より三菱総合研究所作成

4 半導体製造装置の実質輸出

(前年比寄与度、%)



基調判断と今後の流れ

- 輸出は海外経済の成長減速などを背景に、18年後半以降、緩やかな減少傾向にある。
- 先行きの輸出は、緩やかな減少が継続すると見込む。米中貿易協議の行方が不透明な中、①既往の米中関税の影響顕在化、②海外経済の減速、が輸出の重しとなるだろう。
- 半導体関連の輸出は、5Gやデータセンター関連需要の高まりにより下げ止まり感が出てきた。ただし、①米国による中国ハイテク製品排除の動き、②日韓関係、等を背景に、半導体関連の輸出は緩やかな回復にとどまるだろう。
- さらなる下振れリスク要因として、①米中・米欧貿易摩擦の一段の激化、②中国をはじめとする海外経済のさらなる減速、が挙げられる。